

ご支援をいただいたみなさま

お父さんたちのネットワーク

石垣政裕

支援物資のご報告No.16

－気仙沼向洋高校へ自転車－

仙台から気仙沼へ行く方法はいくつかあって、お父さんたちのメーリングリストではそれぞれの経験をもとに最適なルートのご提案がありました。曜日によっては三陸道も大変混雑し、気仙沼在住の方からは「一関を回ると被災地域を見なくてすむから・・・」という話も聞きました。私たちは10時に気仙沼に到着しなければいけなかったため、比較的安全な、「F」に進路を取る「仙台」－「一関」－「気仙沼」ルートを選択しました。なにしろ、地理勘のない石垣は、昔「石巻で公演なら、気仙沼に泊ってみよう」などと大変な選択をしたことがあります。気仙沼は仙台から石巻の距離の2倍ぐらひはあります。今回は仕事で東北をまわり尽くしているような猛者、多賀城中おやじの会の佐々木裕一と一緒にいたので安心でした（・・・もつとも、安心してすぎて印刷した地図を忘れたのではあるが）。

9月10日土曜日。佐々木さんと石垣は、多賀城市内の本屋さん前で朝7時半に待ち合わせ、1台の車に乗り込んだ。他の地域の被災が酷いためニュースでは取り上げられないが、多賀城市内は45号線沿いのお店屋さんもずいぶん被害を受けています。

仙台からの高速道路を一関で下り、そこから国道284号線気仙沼街道をひた走りました。途中岩手県一関市千厩町で「元祖白あんぱん」の看板を掲げている古い構えの店があって、車中あれはなんだろうかという話になりました。「白い餡(あん)」のパンなのか、はたまた「餡が入っている」「白い」パンなのか。まあ、この件はとりあえず急ぎの今ではなく、帰りに確かめようということになりました。比較的真面目に気仙沼に向かったせいか、9時30分には気仙沼に到着しました。

石垣は気仙沼ではキツネにつままれたような思い出があります。今から17年ほど前、先に書いたように石巻公演の『ついで』に気仙沼に宿泊した時のことでした。夕食のために、ビジネスホテルで教えてもらった居酒屋に、カミさんと歩いて行きま



気仙沼向洋高校が開設されている気仙沼西高等学校

した。店に入ると真ん中のカウンターのようなところに親父さんが



自転車を積んできたトラック



荷下ろしされたばかりの自転車

いて、常連らしいお客が勝手にコップや酒などを出して飲んでいる。「はい、お通し！」と出された物を見てびっくり。親父さんの「フグの唐揚げ。」という言葉が素直に耳に入ってこない。これだけで、りっぱな『フグの唐揚げ定食』になってしまう量でした。「気仙沼に来たらサンマ喰おうね」などと話していたものだから、サンマを注文すると、将軍様の脇差のような立派なサンマが一人あたり2尾。厚みや形がジッポのライターより一回り大きマグロの刺身が一人前10枚。刺身の枚数を数えるのも変だが、それだけ、すでに3口ぐらいしか飲んでいない冷や酒で私は前後不覚に陥っていました。漁師が船の上で作った塩辛、ハット汁、おにぎり。「喰うか」と親父に言われるままに、「た、食べさせていただきます。」と恐れ入って数種類食べました。それでも、カミさんは店に入ったときから張り紙の『かに1ぱい500円』がずっと気になっていたの、「カ、カニ、ください。」と小さな勇気をふるってみたら、即座に張り紙をひっくり返され「カニ、おわったよ。」とやられた。そして帰り。安い支払いだけでなく駄目押しのように「これお土産」って、サンマの生姜煮をプラスチック漬け物バケツのような入れ物に二つに



佐々木さんも汗だくです

驚きました。大らかというか、このエピソードは気仙沼とは何かを教えているような気がしました。気仙沼にも通っていたという佐々木さんはさすが、この店を知っていました。私たち夫婦はいつかこの『キツネにつままれた居酒屋』をもう一度訪れたい、訪れたいと思っていたのですが……。

気仙沼の被害は死者1,017人(平成22年の気仙沼市の人口は約73,500人)、行方不明387人、住宅被災棟数14,437棟に昇ります。かつては、マグ

ロやカツオ、サンマの水揚げは全国有数の港町、水産・観光が中心の町です。いつ、この港町の賑わいが戻ってくるのでしょうか。

さて、以前は宮城県気仙沼水産高等学校という名前であった気仙沼向洋高校は海岸線にあったため全て流され、生徒たちも職員の方もずいぶん被災したそうです。本校には情報・産業・機械の3学科があり、今はそれぞれの学科が分かれてそれぞれ気仙沼西高校、本吉響高校、米谷工業高校での分散授業となっている。もうすぐ、仮校舎ができるのだそうです。

私たちお父さんたちのネットワークでは、これまで石巻の学校へ自転車を届けてきました。今回は、宮城県の教育委員会にお願いし、自転車を必要としている学校を探していただき、本校を紹介していただきました。



組み立てられた自転車

私たちは高台にある気仙沼西高等学校を訪れました。事務次長の伊藤先生が対応して下さいました。伊藤先生の家もご実家もまた津波の被害に遭ったそうです。生徒たちも、まだまだ、心も戻るまではずいぶん時間が必要だという話などをさっそくお聞きしました。

今回お世話になった石巻の自転車屋さん、中村サイクルセンターの中村さんの店は石巻でもほとんど流出し火災もあった門脇地区にあったとい

うことです。それでも、いつでも笑顔を絶やさない中村さんたちに、私たちは言葉以上のものをたくさん教えられます。

道に迷ったとかで、10時ずいぶん過ぎて自転車を満載したトラックが到着しました。私たちは中村さん夫妻と他の2人と共に、タープを張り作業場所を既に作っておりました。トラックから次々降ろされる自転車が並んだときは壮観でした。シルバーと黒の2種類の自転車は40台。包装を外し、ペダルを取り付けハンドルやブレーキを調節します。



組み立てが終わりました

高校生が校舎の周辺を走っています。風はあるもののさすがに残暑は厳しい物があります。汗だくになってみな黙々と作業しました。昼ごはんを挟んで午後1時を越えてしまいました。

作業終了後、イタリアの子どもたちからのメッセージを伊藤先生にお渡ししました。スイスのイタリア語圏の子どもたちが書いたメッセージです。まだまだ生徒たちが心の平静をえるまでは時間がかかるでしょうが、彼らがすこしでも自分と向き合えるようになったらどうぞ見せてあげて下さいとお願いしました。



すべて作業が終わり引き渡されました

地域の方々と共に地域を応援したい、地域に寄り添った活動をしたいという私たちの活動にご理解いただき、今回、高校生の自転車のための支援金やメッセージを送って下さったのはカメラア日本人会（Camelia Club Giappone）の方々です。私たちは心より感謝申し上げます。